

multilingual translation >

You can get information about
Yonago on your smartphone.



音声読み上げ・多言語翻訳は「カタログポケット」で

みず・まち・自然 エンジョイ！米子

広
報

よなご

4

2026
April
No.253

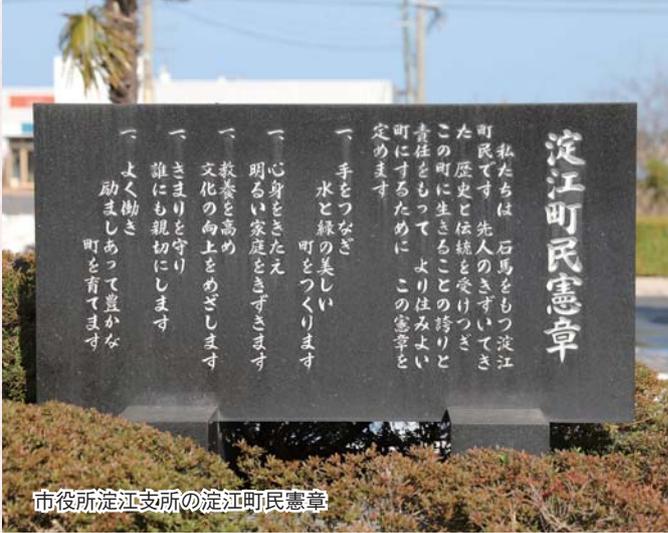


うまどし
午年の春、会いに――

特集

淀江の石馬

いしうま



市役所淀江支所の淀江町民憲章



淀江を歩くと、あちらこちらで「石馬^{いしうま}」の姿や名を目にします。ベンチや案内看板、さらにはマンホールのふたにまで——。その姿は、まちの日常にさりげなく溶け込んでいます。なぜこれほどまでに、石馬が親しまれているのでしょうか。その理由を探しに、淀江のまちを歩いてみませんか。石馬のことを知ると、まちの景色が少し違って見えてくるかもしれません。

圃 淀江振興課（☎56-3164）

特集 淀江の石馬^{いしうま}



天神垣神社の石馬収蔵庫



山陰道高架下の壁画



本州で唯一、見られるのは淀江だけ

大山産の石を彫って 作られた石製の馬

石馬は、大山で産出された一つの大きな石から、馬の姿を丸ごと彫り出して作られたとされています。大きさは子馬ほどで、前脚は失われ、胴体と後脚は接合されていますが、それでもなお、力強く凛とした存在感を放っています。

実は、石馬の存在が確認されているのは九州北部と淀江のみ。本州では淀江が唯一で、大変貴重なものです。

石馬は、古墳時代後期に造られた石馬谷古墳（淀江町福岡）に立てられていた石製の埴輪馬と考えられています。江戸時代には「石馬大明神」として祭られていましたが、明治時代に東京帝国大学（現東京大学）の坪井正五郎博士の調査によって古墳時代の遺物であることがわかり、今日まで大切にされてきました。こうした経緯や保存に尽くした人々の歩みを伝える「石馬顕彰碑」も残されており、そこからは貴重な石馬を未来へ受け継ごうとした人々の強い思いが伝わってきます。



「石馬さん」と呼ばれ 長年親しまれてきた

その後、石馬は昭和34年に国の重要文化財に指定され、現在は上淀地区の天神垣神社の収蔵庫で大切に保管されています。

昭和55年に制定された淀江町民憲章の前文には、「私たちは、石馬をもつ淀江町民です」とうたわれており、石馬がまちの誇りとして象徴的な存在であることがうかがえます。今も淀江のまちには、石馬をモチーフにしたベンチや案内看板などが点在し、訪れる人の目を惹きつけています。人々から親しみを込めて「石馬さん」と呼ばれる石馬は、これからも淀江の歴史を伝える文化的なシンボルとして、まちを見守り続けます。

石馬のこと、教えてください！



上淀白鳳の丘展示館 主幹学芸員

今香さん

石馬とは？

大山産の角閃石安山岩の一石を丸彫りした石製の馬です。体長は約150cm、高さ約90cmで、轡・手綱・鞍などの馬具が表現されています。頭や首の回りには赤い色が残っているので、昔は全体が赤く塗られていたかもしれない、という説があります。

どのくらい古いものですか？

古墳時代後期（6世紀後半）に造られたとされる石馬谷古墳に立てられていたと考えられています。

見学したいときは？

石馬が保管されている収蔵庫は鍵がかかっていますので、見学希望日の前日までに上淀白鳳の丘展示館（☎56-2271）へ電話でお問い合わせください。

上淀白鳳の丘展示館 ☎56-2271

上淀廃寺の金堂内部を原寸大復元したものや、仏教壁画、弥生時代の土器や古墳時代の埴輪などを展示。

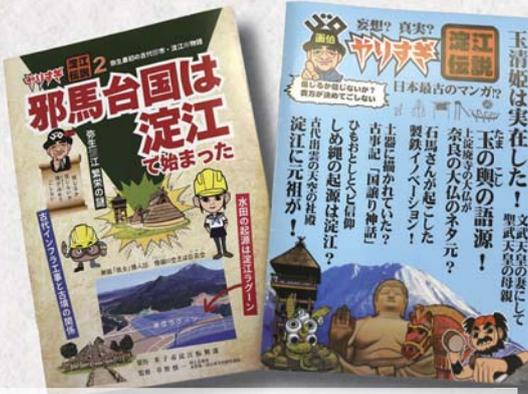
▶開館時間（火曜日休館）

午前9時30分～午後6時
（最終入館は午後5時30分）

▶入館料

一般 310円、大・高校生 160円、
中学生以下無料





「やりすぎ淀江伝説」ここにあります
 市役所本庁舎、第二庁舎、淀江支所、市立図書館、米子市観光センター、淀江ゆめ温泉、伯耆古代の丘公園、上淀白鳳の丘展示館などに設置しています。
 ※各施設に在庫がない場合もあります。
 圏 淀江振興課 (☎ 56-3164)



信じるか信じないか？

わ(あなた)が決めてごしない！

少し「やりすぎ」？

淀江の謎に迫る冊子

妻木晩田遺跡から淀江平野にかけて弥生・古墳・飛鳥平安時代の歴史遺構が残る淀江。そんな淀江の歴史や言い伝えを、「やりすぎ淀江伝説」ではユニークに紹介しています。

冊子は2種類で、歴史に詳しくなくとも気軽に読むことができます。少し「やりすぎ」かもしれない説を楽しみながら、まちを歩いてみるのもおすすめです。

石馬にも多くの謎が

詳細については多くの謎に包まれている石馬。「やりすぎ淀江伝説」の中でも石馬に関する説が取り上げられています。

粘土をこねて作る埴輪とは異なり、硬い石を彫って作られた石馬。当時のようにして作られたのか、作者はどんな人物なのか、どんな目的で作られたのか、なぜ本州では淀江にしかないのか…。

想像を膨らませてから石馬を見ると、また違った楽しみ方ができるかもしれません。



石馬デザインのベンチ



古代ロマンロードにある案内看板

見つけた！
 「石馬さん」
 マップ上の番号の位置にあります。

淀江の石馬マップ



向山古墳群

淀江平野を見晴らす丘の上に築かれた古墳群です。古墳時代に周辺をおさめていた歴代の首長の墓だと考えられています。

淀江ゆめ温泉

天然温泉の日帰り温泉施設です。館内にはレストランや売店もあるので、散策の一休みにおすすめです。

上淀白鳳の丘
展示館

上淀廃寺跡

天神垣神社

P

石馬谷古墳



伯耆古代の丘公園

公園内や向山丘陵に170本の桜が咲き誇ります。3月28日(土)～4月7日(火)までは、「さくらウィーク」が開催されます。

いしうまだに 石馬谷古墳

石馬が出土したとされる石馬谷古墳は、古墳時代後期に造られたと考えられています。九州北部と深い交流を持っていた首長の墓だと考えられています。

あめのかみがき 天神垣神社

神社内の収蔵庫に石馬が保管されています。石馬を見学したい場合は、前日までに、上淀白鳳の丘展示館へ電話で問い合わせを。

JR 淀江駅から米子白鳳高校まで続く「古代ロマンロード」(約2km)には、石馬がデザインされたベンチや案内看板などが数多くあります。ぜひ、淀江のまちを歩いて「石馬さん」を見つけてみてください!



淀江ゆめ温泉にある石馬の像「平成の石馬」



古代ロマンロードにある「石馬の物語」